



「絵本とわらべうたの会」2026 年度④

日 時 7 月 7 日(火) 10:00~11:00

場 所 西公民館 1 階 集会室

定 員 15 組

就園前の子とお母さんを対象に
わらべうたと絵本の読み聞かせで楽
しいひとときを過ごします。



市民読書サポーターのいる日程 7 月

市立中央 図書館 (10:00~ 12:00)	4 日 (土)	11 日 (土)
	18 日 (土)	25 日 (土)
西公民館	7 日 (火)	10:00~11:00

おすすめの本の紹介

小学校中学年から



パイがふたつあったおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え
いしいももこ やく
福音館書店

ある日、猫のリビーが、犬のダッチェスに「とてもおいしいパイをごちそうします」と招待状を送る。ダッチェスは「よろこんでうかがいます」と返事を出した。けれども、リビーの作るパイは「ねずみのパイ」に違いないと気づいたダッチェスは、どうにか食べなくてすむ方法を考えて、自分の作った「子牛とハムのパイ」を「ねずみのパイ」とすり替えることを思いつく。そこでダッチェスは、リビーの家に忍び込んで自分のパイをオープンに入れてくる。それから改めて約束の時間にリビーの家へ行くが……。



火のくつと風のサンダル

ウェルフェル 作
関 楠生 訳
童話館出版

7 歳のチムは、くつやのお父さんとやさしいお母さんと 3 人で暮らしている。学校一ちびででぶのチムは、友だちにばかにされ、自分のことが嫌になる。夏休みに、お父さんとチムは、自分たちのことを「風のサンダル」「火のくつ」と呼び合いながら、くつなおしの旅に出る。チムは川に落ちたり、森で迷子になったりするが、お父さんは、年寄りの魚や黒い羊やしあわせな豚の話などを、ユーモアを交えて話して聞かせ、チムはそのたびに元気づけられる。4 週間後、チムはチムであることが好きになって、お母さんのいる家に帰ってくる。

小学校高学年から



大きな森の小さな家

ローラ・インカリス・ワイルダー 作
恩知三保子 訳
福音館書店

100 年以上も前のアメリカ北部を舞台に、少女ローラとその一家の開拓生活を描いた物語。ローラが 5 歳から 6 歳まで住んでいた「大きな森」の丸太小屋での家族の日常生活を描く。冬に備え食料を確保するために、ベーコンやハム作りを手伝った話、豚の膀胱を風船代わりにして遊んだ話など、季節ごとに印象に残った出来事を 5 歳のローラの目を通して語っている。

続編に『大草原の小さな家』『プラム・クリークの土手で』『シルバー・レイクの岸辺で』などがある。



魔法使いのチョコレート・ケーキ

マーガレット・マーヒー 作
シャーリー・ヒューズ 画
石井桃子 訳
福音館書店

ニュージーランドの女性作家の書いた短編集で八つのお話と二編の詩からなる。題名の「魔法使いのチョコレート・ケーキ」は、魔法の腕はよくないが、すばらしいチョコレート・ケーキをつくる魔法使いが、町じゅうの子どもたちをパーティーに招待しようとするお話。ほかに「葉っぱの魔法」「ミドリノハリ」「幽霊をさがす」など、どれも日常生活の中に魔法が起こる不思議なお話で、想像力を刺激され、イメージが広がり、思わずお話の世界に引き込まれる。読んであげれば低学年でも楽しめる。